

平成27年度 地域福祉コーディネーター活動事例紹介

- | | | | |
|---------------|--------|------------|--------|
| 1. 石巻・山下・住吉地区 | 谷 祐輔 | 6. 湊・渡波地区 | 西本 健太郎 |
| 2. 稲井(開成)地区 | 小松 沙織 | 7. 河北地区 | 佐藤 弘美 |
| 3. 門脇・釜・大街道 | 鈴木 麻千子 | 8. 雄勝・北上地区 | 山本 将志 |
| 4. 蛇田地区 | 浜崎 晃行 | 9. 河南地区 | 及川 里美 |
| 5. 牡鹿・荻浜地区 | 高橋 泰 | 10. 桃生地区 | 伊藤 善和 |

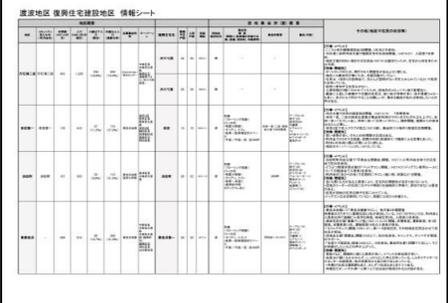
①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
貞山地区	地域の子ども支援	大橋地区	悩みに寄り添う	大橋仮設団地	想いに寄り添う	駅前北復興公営住宅	新たなコミュニティ
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<ul style="list-style-type: none"> ・世代間の繋がりが希薄になった。 「子どもを地域で育てたい」 「子どもとの触れ合いは生きがいだ」という地域の方の声 ・地域活動の担い手不足 ・子どもの貧困 地域の福祉力の減少 ・子どもの地域への参画 		<p>「介護が辛い・苦しい」 「これから不安だ・・・」 という仮設住宅に移り、認知症の奥さんの介護をしている住民の声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災前に住んでいた地域には知り合いが多く、助けてもらっていた。 ・仮設に移り誰も知らないし、介護の悩みや不安を話すことも出来ない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・住民の声をサポートし生まれた企画 <p>「仮設には一人で寂しくしている人やふさぎ込んでいる人がいる」 「そのような人たちも何かしらの趣味や得意な事を持つてのりに気づいた」 「趣味や手仕事をもち寄って発表する場を作りたい。そしてみんなで交流してみんなで元気になりたいんだ」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率41,94% 「誰も知り合いがない」 「まるで牢屋のようだ」という復興公営住宅に住む方の声 <p>一方で 「今度は自分達で支え合っていきたい」 「頑張ってみんなで楽しく暮らしたい」という復興公営住宅会長の声</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『子ども食堂』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の会館で地域の子どもと大人と一緒に料理し(カレーライス)温かく懐かしい食事をする場づくり ・住民主体で継続的に開催予定(町内での担い手を募っている段階) ・食材はほぼ寄付でまかなわれている。 ・参加者：子ども40名地域の方15名 <p>※空いた時間を活用し、子ども達が地域の高齢者へ絵手紙を作成した。後日その絵手紙をもって13名の子ども達が民生委員とともに高齢者への訪問活動を行った。</p>		<p>『悩みを共有・共感出来る場づくり』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは何より、同じような想いをしている人が他にもきつという見立てをもって、そのような人たちが集ってみようという話がされた。 ・この仮設住宅を包摂する地域の民生委員や町内会、仮設団地会に呼びかけ「認知症家族の会」を開催 ・介護経験者や現在介護中の方、そのような人たちを支えたいサポーターが集まりざっくばらんな話が。 <p>※「ふっと肩の力が抜けた」住民の声この機会をきっかけに知り合いも増え日々の交流につながっている。</p>		<p>『得意を活かした繋がりづくり』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・”おおはしかせつ文化祭”を開催 ・30名以上の出品者が集まり100名以上の来場があった。 ・ひとつ一つの作品に出来るだけ出品者が付き来場者とのコミュニケーションが取れる点を大切に。 ・お茶のみスペースも設け、そこで初めて会った住民同士が作品の話題にはなを咲かせていた。 <p>※この文化祭をきっかけに、趣味を教えあう交流や、作った者をおすそわけする繋がりも出来ている。</p>		<p>『仮設の経験・成果を次に繋げる』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設生活でコミュニティの必要性や大切さに気付いたと話してくれる方が多く見られる。 ・仮設支援の大きな成果。 ・CSCとして上記の住民同士で助け合っていこうという思いをサポート。 ”住民主体のお茶会の開催”(写真) <p>※その後、右写真のような心配な人を見守っていこうというポスターが張られ”介護者・悩みを抱える人の会”や”出来ないことをサポートし合える仕組みづくり”に繋がっている。</p>	
							

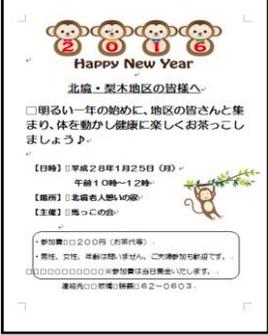
①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
開成(仮設住宅)	自助力をつなぐ	開成地区	施設から地域づくり	開成(仮設住宅)	地域の受け皿機能	開成地区	地域連携
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>残っていく仮設住宅の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話人の退去と共に、自治会の解散へ ・「これまで自分たちで頑張って見守ってきた人の情報はどのように繋いでいったらいいのだろうか」 「残る住民が心配」退去する役員の声 		<p>「自分たちの身近にある施設」 「地域の中で共に取り組めるまちづくりを考えたい…」民生委員の声</p> <p>「周辺に新しい住宅が出来たが繋がるきっかけが掴めない」 「震災前は町内行事もたくさんあって参加出来たけど」施設の声</p>		<p>「健康相談会を実施しても集まらない」 ニーズはない？専門職の悩み。</p> <p>「人が減り体調も心も不調・・・」 「毎日の体操が楽しみ」 住民の声。</p> <p>地区性にあった地域支援。 身近な相談窓口の必要性。</p>		<p>震災以降、住民が増え新たな町内会ができた新興住宅地</p> <p>「顔を合わせる機会がほしい」 「交流が大切だと思うが場所がない」という住民の声 「住民の把握ができない」 「仲間づくりをどう進めたらいいか」という民生委員の声</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『住民によるつながり情報の整理』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が頑張ってきたこと、把握してきた情報を一緒に可視化することを提案 ・住民だけでなく、仮設に関わる専門職も巻き込み情報の整理をサポート ・住民から住民へ…自治機能の引継ぎがスムーズに ・「頑張ってきてよかった」喜びの声 <p>※これまでの住民活動を評価し、次の生活の場でも活かせる住民力へ繋がっている</p>		<p>『地域みんなで取り組む避難訓練』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GH運営会議へ民生委員と共に参加施設側、周辺住民、家族会の想いを把握。 ・2年目の発展 → ”知る”から”一緒に取り組む”への展開 ・合同避難訓練の実施 ・周辺住民が積極的に参加。打ち合わせから共に考えてる場が生まれている <p>※お互い様の関係、みんな一緒の関係共にメリットのある関係性を見つけることで、箱モノにとらわれない日常の繋がりがづくりが作れると感じる。</p>		<p>『住民活動にコラボ！健康相談会』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職へ働きかけ…アウトリーチで住民活動への参加を促す。 ・保健師の役割や目的にも目を向ける ・いつものサロン(健康体操)＋保健師による健康相談会のコラボ実施へ。 ・毎月第2火曜日は保健師が出向き身近な相談窓口を開設 <p>※生活圏域での身近な相談窓口を持つこ。アウトリーチの有効性を感じる取り組み。</p>		<p>『カフェから始まる福祉コミュニティ』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員と地域資源開発のため町内を歩く(集いの場へと繋がるカフェの発見 キーマン+場所) ・カフェ、民生委員、町内会それぞれの想いを聞き、共有する場の設定 ・カフェに保健師等の専門職を繋げる事により、住民同士で地域の心配事や気になる人の事を話せる場へ。 ・住民グループの立ち上げ 定期的なサロン実施へ <p>※町内の理解も進み”地域のカフェ”に</p>	
							

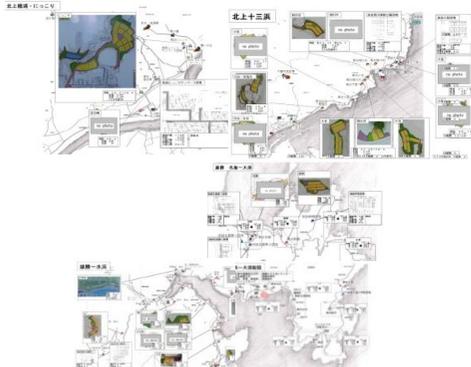
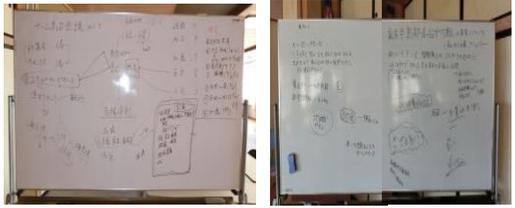
①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
釜・大街道	仮設住宅と従来地域	釜・大街道	福祉活動の継続	門脇	地域資源開発と継続支援	釜・大街道	個別への寄り添い
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>「ボランティアさんが来なくなったら集まって楽しめる場なくなる」という仮設住民からの声</p> <p>「仮設団地がうちの町内の班に編制されたけど交流もないから心配だな」という既存住民からの声</p>		<p>震災後、地域で趣味の活動をしているグループの気づき</p> <p>「以前は町内の敬老会があったよね」</p> <p>「地域に笑顔を増やしたい」</p> <p>自主グループ主催で2年間敬老会を開催 →「敬老会を定着させるにはどうしたらいいのだろう」活動の継続と定着を考えている</p>		<p>自宅開放型小規模サロン役員の声</p> <p>「高齢者が多く暮らしている地域だが、顔を合わせる機会がない」</p> <p>「小規模でも参加している人が楽しめる内容を継続して行っていきたい」</p>		<p>復興公営住宅会長から連絡</p> <p>「同じ住宅に暮らしている〇〇さんの話を聴いてあげてほしい」</p> <p>「新しい環境になじめず、困惑している住民への対応方法が分からない」</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『折り紙でつないだ2つの想い』</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>仮設住宅</p> <p>みんなで楽しめる場がなくなった</p> <p>クラフト折り紙作製スタート</p> <p>「折り紙プレゼントしてみませんか」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>既存町内会</p> <p>仮設住宅の様子ちょっと心配</p> <p>布小物をもらって喜ぶ姿</p> <p>「折り紙受け取り行きましょう」</p> </div> </div> <p>※つなぐ過程で、住民の想いを尊重する事により、双方向のやり取りが生まれ地域の関係づくりにつながっている。</p> 		<p>『地域福祉活動の継続・定着をめざして』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「町内会福祉部を作ることを思いついた」と相談を受ける。 ・地域包括支援センターとの繋がりづくり（マップを見ながら気になる住民について話し合う場の設定） ・福祉部の活動内容の相談を受け、話し合いの場に参加。企画の中に、復興公営住宅住民が参加できるような提案や多くの人が参加できるような周知の支援 <p>※「地域の福祉力を高める」ことを考える母体が出来たことで住民主体で取り組みを考えやすくなった。経験を積みながら、地域の変化に合わせた活動を目指していく。</p> 		<p>『自分たちで楽しめる場をつくる』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容について、サロン参加者が話し合う場に参加 ・「手作業がしたい」という声に仮設住宅で折り紙作製している住民へ講師依頼をした→仮設での取り組みの成果発表の場 ・「福祉の話を聞きたい」社協ヘルパーから講話を調整 <p>※参加者の声が活動内容につながりやすい（参加者が主体となる）自宅開放型小規模サロンらしさを継続</p> 		<p>『身近な相談者』</p> <p>【会長への支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談内容の聞き取りを行い、会長の想いを理解する ・困惑している住民とCSC・地域生活支援員とのつなぎを依頼 <p>【〇〇さんへの支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSC、地域生活支援員が面談を実施（本人とCSC、家族と支援員） ・心のケアの専門家へのつなぎを行い、受診へとつながる。 ・生活上の楽しみ・不安を話せる場づくり <p>※会長、〇〇さん、〇〇さん家族の「どうしたらいいのだろう…」を受け止める専門職がいることで生まれる双方への安心感</p> <p>※入居1年が過ぎ、互いに気遣いながら顔の見える関係性づくりが展開されようとしている。</p>	

①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
蛇田	垣根のない交流	蛇田	交流のきっかけ	蛇田	住民力のきっかけ	蛇田	サロンという手法
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>大規模な復興住宅を迎える新興住宅地区</p> <p>「どんな人たちが来るのか…不安」 「でも仲良くしていきたい」 複雑な気持ちを抱える住民の声 「新しい町の事は何も知らない」 新しく移る人の不安な声</p> <ul style="list-style-type: none"> 震災以降の生活環境の違い 変化する地域とバラバラな住民意識 		<p>既存町内会にできた小規模復興住宅 「集まる機会がなくて寂しい」 「集会所もない…」復興住宅住民の声</p> <p>一方… 「仲良くしたいけどきっかけがない」 との既存町内会の住民の声</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存町内会と復興住宅の見えない壁 復興住宅内にある住民同士の壁 		<p>新蛇田に出来た大規模復興公営住宅</p> <p>「隣の住民の顔も分からない」住民の声</p> <ul style="list-style-type: none"> 集会所の使い方等、暮らしのルールを決めていく自治はまだ生まれていない 集会所は開くことは無く、住民同士が話し合う機会もない 		<ul style="list-style-type: none"> 高齢化が顕著になっている町内会 住民同士のつながりの希薄化 「お茶っことか何かやりたいけど、どこから始めたらいいかわからない」という地域を考えてくれる住民の声 各地域、各町内によってバラバラなコミュニティの現状 基盤の脆弱 	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『周辺マップ作りと花見』</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェルカムという気持ちを伝えたいという住民の想いからスタート 地域を伝えるため住民と一緒に町歩きをし、マップへの落とし込みを行う。 その過程で民生委員、老人クラブキーマン等を巻き込み復興住宅を迎える地域の気風を作っていた。 結果、地域に新しく来る住民と顔を合わせる場として花見を開催 <p>※復興住宅、仮設住宅、既存町内の垣根が無い交流が増えている。</p> 		<p>『仮設住宅を拠点とした地域づくり』</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅を気に掛けている民生委員と訪問 団地住民同士、団地住民と町内会の住民同士など住民が話し合える場を設定 皆で話し合う事により、集まる場所は仮設住宅の談話室もあるよね、と新たな気づき。地域拠点のひとつに。 出来ることからはじめようと、町内会主催の交流会がスタート <p>※復興住宅住民同士、仮設住宅や隣近所の住民との交流の場に。</p> 		<p>『きっかけのためのラジオ体操』</p> <ul style="list-style-type: none"> 関係機関と共に住民の想いを聞く会を開催 →住民の要望や団地が抱えている課題（住民同士のけん制によるコミュニティ形成の停滞）を把握 リーダーとなりうる住民と一緒にラジオ体操がスタート <p>※意見の違う住民同士がコミュニティについて話し合えるきっかけとなった。</p> <p>※ラジオ体操が住民主体で継続中</p> 		<p>『サロンへの関わり・サポート』</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民と一緒に、町内会の現状、自分たちで出来ること、必要な事の整理 他地区の取り組みや助成金などの情報を提供・アドバイス 仮設住宅や復興住宅、既存町内等の情報の橋渡し（調整機能） <p>※複数の町内会で集会所を使ったサロンや自宅開放型サロンが立ち上がっている。町内会活動、ご近所付き合いに繋がっている</p> 	

①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
鹿立浜	地域力を高める	防災集団移転地区	支援チームづくり	鮎川	住民活動のサポート	荻浜	地域資源の活用
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>集落全体が高台へ移転する浜の区長からの声 「地区のシンボルが欲しい」 「景色が殺風景だなあ」</p> <p>顔見知りではあっても ”みんなで取り組んだ”という記憶や足跡づくりが必要なのではという声も聞かれた。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を大切にし、地域の特色に合わせた支援を行うCSC。 ・個々で活動する事が多い。 ・CSC内で地域の「強み」「弱み」も共有し、良いものをそれぞれの地域に繋げていく。 		<p>震災で大きな被害を受け学校の校庭に仮設住宅が建った地域</p> <p>「地域の遊び場（公園）も流され子ども達のために公園を作りたい」という住民の声</p> <p>「建設地」「資金」「公園の管理」が課題となる。</p>		<p>「学校って卒業すると行かないよね」と地域住民の声</p> <p>「福祉教育の充実した取り組みをしたい」と先生からの声</p> <p>「地域の担い手である年少人口の減少により学校と地域の繋がりが希薄しているのでは」CSCの見立て</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『桜の植樹』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区長の想いを聞き、事業協力をしている”桜並木ネットワーク”を繋ぎ植樹を実施 ・同様の地区がある事を想定し、区長会にて桜の植樹を活用した地域のきっかけ作りを説明・提案。 <p>※高台移転地で最初の地域行事となった。 ※地域の子どもから高齢者まで参加した植樹会は継続して世代間の交流につながっている。</p>		<p>『チーム高台』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSCの仕事を通じた課題解決を目指すチームの支援で実践する”チーム高台”を結成 <ul style="list-style-type: none"> >各エリアの情報を共有 >全高台地区の視察 >共通課題の洗い出しと普遍化 <p>※CSCだけのチームづくりではなく、エリアミーティング参画団体との高台見学などを企画し”福祉の地域力”アップを働きかけた。</p>		<p>『夢公園』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園づくりの今後を見据え、市民活動団体との意見交換を行う。 ・県共募「むすび丸ピンバッチ」事業との丁寧なつなぎを心がけた。申請へ。 <p>※地域の想いと、助成金等の情報をつなぐ事で、地域力、住民力を高めるきっかけとなっている。</p>		<p>『地域資源としての小学校』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の状況把握、関係性作りのため定期的に訪問 ・福祉教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> >児童への事前授業 >授業発表（祖父母参観）世代間交流 >振り返り・事後授業 <p>※児童の福祉力向上と世代間の交流を同時に※子どもの姿が地域の力に繋がる場として学校への働きかけを継続していく。</p>	
							

①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
渡波地区	当事者に寄り添った居場所づくり	湊地区	インフォーマル資源とつながる	渡波地区	地域と復興住宅の融和	湊・渡波地区	関係機関との連携
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>「夫が亡くなり、一人でいるのが寂しい 同じような状況の人たちと集みたい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孤立・孤独の防止 ・生きがい・居場所づくり 		<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員より「余った食料を生活が苦しい方に提供したい」との声 ・フードバンク事業では、衛生管理上、事業者からの提供のみ受け付けている現状 ・住民の想いを途切れさせないようにつなぐ必要性を感じた 		<ul style="list-style-type: none"> ・既存住民と復興公営住宅入居者との交流の場がほとんどない ・地区内に復興住宅が2団地（計150世帯）建設され、既存住民が集う健康サロンで「避難ビルを見学したい」との声 ・避難ビルを上げられるだけの体力が必要健康意識の向上につなげたい 		<ul style="list-style-type: none"> ・復興住宅への移転が進む中で、支援者間で情報共有の整理の必要性が出てきた。 ・復興住宅だけでなく、受け入れ地区の状況も把握する必要がある。 ・エリアミーティング参加団体同士で連携協働がしやすい雰囲気を作られてきた 	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『自宅開放サロンの立ち上げ』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を上げた方の自宅を会場として、主に独居高齢者が集うサロンを企画。CSCとして立上げを側面支援 ・民生委員、更生保護女性会等の協力を得ながら活動（協力者集め） <p>外出しづらい方、交流の少ない方の受け皿となってきた（全盲の方、杖歩行の方、独居男性）</p>		<p>『地区をまたいで想いを届ける』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSCから「ていざん子ども食堂」を提供先として提案。担当CSCと共に民生委員宅に訪問食料の受け取り ・子どもからのお礼メッセージを民生委員に届けた（下記写真 相互の関係性） <p>住民の「誰かの役にたちたい」という想いが活かされていないことが多くある。CSCが繋いでいかなければいけないと学んだ。</p>		<p>『避難ビルを融和のきっかけに』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSCがサロン代表（区長）と打合せ、復興住宅団地会への動向訪問を行うなど実現に向け伴走 ・社協復興班が復興住宅への声掛けを実施参加者20名中半数が復興入居者だった <p>これをきっかけに、サロンに来るようになった復興入居者も。地区全体の避難訓練でまた上がろうとの話もでている。</p>		<p>『地区情報シートを作成』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CSCと保健師で事前に進め方を打合せ ・全員でシートの項目を決定復興住宅内のコミュニティ、既存地区との交流といった情報の集約を進めた <p>個別ケースを見るだけでなく、地域づくりの視点を持つことが重要との意識が各団体に浸透してきている</p>	
							

①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
谷地地区	外部支援で地域作り	大森仮設団地	遊び場という手法	三反走団地	変化への寄り添い	北境・梨木地区	想いの共有
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<p>「地域に生きがいデイの様な皆で集まり楽しめる場があったらいいなあ」 生きがいデイ参加者の声</p> <p>「昔は地域もにぎやかだった」 「世代間のつながりもなくなってきた」 寂しそうな地域の方の声</p>		<p>・子どもが仮設団地の集会所で遊ぶ事に怪訝な顔をする住民</p> <p>「外で思いっきり遊ばせたいけど、遊び場がない…」と話すお母さん</p> <p>「何か自分ができることがあれば…」と前々から話してくれる男性の声</p>		<p>・団地内でお茶会を開いてくれていた住民（キーマン）が団地から移行していく事に（高台移転）</p> <p>・上記お茶会を楽しみにしていた住民からの「楽しみがなくなる」「話す場なくなるから不安だあ」という声</p>		<p>「北境地区にもお茶会のような集まる機会がほしい」地域住民の声</p> <p>・新しい住民さんが増えてきている地区</p> <p>「閉じこもりにならないで、健康に過ごせる時間をつくりたい」という民生委員からの声</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『サロン立ち上げと桜の植樹』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協生きがいデイに参加していた方の上記の想いを聞き、住民主体サロン立ち上げをサポートした。 ・サロン立ち上げの喜びとともに、ポツリと出た地域に向けた寂しそうな声をキャッチ ・どのような地域の繋がりがいいかを住民と話し合い桜の植樹に決定。 ・子どもから高齢者まで、地域住民皆で桜の開花を楽しみにしながら、桜の植樹と交流が行われた。 <p>※その後、現在桜のお花見会を開催する事に決まった（4月）</p>		<p>『遊び場を通した繋がりづくり』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団地に足を運ぶ事により上記の声を拾う ・この3者の想いをつなぎ、より良い仮設のつながりを目指すため、まずはその想いを共有するための場を設定。 ・遊び場づくりをしていこうという話になり、子ども支援を行うNPOへ協力依頼 ・仮設住宅の住民の巻き込みも積極的に行った（地域生活支援員を通じ） <p>※二名の男性が、毎回遊び場に参加しており、男性達が得意な大工仕事などで力を発揮してくれている。</p>		<p>『変化していく地域への寄り添い』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅団地のコミュニティは刻々と変化している。 ・キーマンの変化も視野に入れ上記の様な不安や寂しさの声を様々な住民と共有する場を設定していった。 ・その結果、今後は自分達でもやっという残る住民さんの声が立ち上がってきている。 <p>※カラオケの会が継続的に開催され、以前よりも集会所が活用されるようになっている。</p>		<p>『想いの共有と場づくり』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーマンとなる人たち、声をあげてくれた人たち（区長、民生委員、主任児童委員、役員等）と話し合いの場を設けた。 ・みんなで同じ視点で地域の変化を受け止める事につながった。 <p>※サロン”馬っ子会”が継続的に開催されるようになっている</p> <p>※サロンから展開され心配な人の事を見守っていくような話にも繋がっている。</p>	
							

①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
雄勝・北上	整理と可視化	離半島部高台移転	新たな枠組み	雄勝	地域への寄り添い	北上仮設団地	きっかけづくり
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<ul style="list-style-type: none"> 仮設、課題移転住宅等、震災で変わっていく地区の状況について、情報がバラバラでわかりにくい。 専門職・支援者間でも現状の共有がより、難しく感じる。 結果、概ねの課題共有しかされず、具体的な話につながっていかない 		<ul style="list-style-type: none"> 離半島部高台移転について、今後外部からのボランティア支援だけでなく、公的な支援も減っていくのではという見立て。 ”半島部は”と一括りにされがちだが状況は地区により違う。実際にどう違うのか、同じ部分(課題)は何なのかを、根拠をもって活動する必要がある。 		<p>サロン実施者の声</p> <p>「集まりが必要だと思ってサロンを立ち上げたが今後何をしていたらいいか」</p> <ul style="list-style-type: none"> >高齢化率55パーセント >震災以降、人が大幅に減っている集落 <ul style="list-style-type: none"> 立て直されて新しい集会所とポロポロで壊れかけた備品の数々 		<p>包括ケア座談会にて</p> <p>「仮設に集会所はお姉さま方(80~90代)の憩いの場になってるから使いづらいんだあ」</p> <p>「部屋で一人でラジオ体操してるんだけどほんとはみんなで出来たらなあ」</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『マップへの落とし込み 可視化』</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮設、高台移転住宅、地域資源、震災前と現在の変化をマップに落とし込みました。 <p>※支援者や地域の方との情報共有の場で活用されている。</p> <p>※新たな発見や更新される情報もあるので定期的な見直しを行っていく。</p> 		<p>『高台支援を見据えた枠組みづくり』</p> <ul style="list-style-type: none"> 離半島部(牡鹿、荻浜、雄勝、北上)でチームを組み(社協内)各地域の視察 視察後振り返りを行う。 <ul style="list-style-type: none"> >住民の声を拾うことが必要。 >民生委員、区長等キーマンを訪問し現状把握を進める。 >新たな生活のスタート、区切りとして地区にあったきっかけづくりを考える。(街びらきや桜の植樹等) <p>※課内での共有→他機関との共有につなげ共通認識で進んでいく。</p> 		<p>『限られた資源のつなぎと活用』</p> <p>「何をしたいこうか」について参加者の声を出し合うためにサポート。</p> <p>→その声を基に地区で活用できる資源を参加者で考える事に(資源の洗い出し)</p> <p>集会所の備品を提供してもら(地区の小中学校から椅子等)というきっかけを作り地域内での接点を増やしていった。</p> <p>※継続的な開催に繋がっており、住民の楽しみ・生きがい・居場所となっている</p> <p>※限りある資源と新たに繋がる、新たに増やしていくという事を住民と行うきっかけと</p> 		<p>『自主活動のきっかけ作り』</p> <ul style="list-style-type: none"> 座談会后、地域生活支援員と共に再度話をうかがった。「何かをやりたいという想いを受け止めた」 一人でラジオ体操をしている方をきっかけにその想いを団地内で共有。みんなでラジオ体操をすることに。 <p>「みんなに毎日会えることが楽しい」</p> <p>「お互いの見守りにもつながってるんだあ」</p> <p>※仮設からバラバラになったとしても自主活動につながる共通の体験を持つことができた。</p> 	

①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
河南地区	地域と復興住宅との融和	河南地区	得意を繋ぐ	河南地区	地域内をつなぐ	河南地区	活動支援
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
復興住宅24世帯が入った地域 「復興住宅の住民と交流の機会がない」 「同じ地区で親睦を深めるのは大切」という町内会長の声 ・復興住宅の住民からも町内の住民と交流がないんだあとの声		・歴史の長い地区と、隣接してできた新興住宅地があり、近くに住んではいるが、互いにつながるきっかけがない ・縫い物が趣味が住民より「巾着をたくさん作ったので誰かにもらってほしい。どこかで活用してもらえないか」との声。		・地域にある介護施設から「地域の人にも遊びに来てもらいたい」「施設の事をもっと知ってもらいたい」との声が聞かれていた。 ・町内会主催で交流会を開催するが、どのような内容にすればよいか相談を受けた ・施設を地域内で身近に活用できる資源だと考えた。		・町内でのサロン活動がない地区で民生委員がアンケートをとったところ「サロンをやってほしい」との要望が多く上がった。 ・行政委員が代表となり地区ぐるみでサロンを立ち上げたが「何をしたいかわからない」との声。	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
『交流に向け町内会をサポート』 「復興住宅団地には、子どもも多い。親子で楽しめるような会にしたい。」という会長の想いに寄り添い実施内容を共に考えた。 ・交流会当日、復興住宅からの参加者は多くはなかった。しかし「どのような内容なら皆が楽しめる交流が図れるか」と役員間で打ち合わせ、準備を行い取り組む過程の中で、結束が高まったのを感じる ※当初、町内会と復興住宅団地間ではすれ違いや溝がみられていたが、時間の経過や交流会を通じて、徐々に互いの理解と融和が見えつつある。		『関わりのない地区同士をつなぐ』 ・CSCが巾着を預かり、近隣地区で新しく立ち上がったサロンを提供先として参加者に届けた。 ・サロン参加者からお礼のスカーフを預かり、巾着を受け渡したときの写真と共に届けた。 ・これまで交流がほとんどなかった両地区だが、このように住民の想いを届けていくことで敷居の高さを取り除いていけると感じた。 ※今後、巾着を提供された方が、手芸の講師としてサロンに呼ばれるようになるなど、新たな繋がりが生まれるように関わっていく。		『関わりのない地区同士をつなぐ』 ・「カラオケをしたい」との声を拾ったのでCSCが地区内の介護施設に問い合わせた後、町内会長と共に施設を訪問。貸出だけでなく、リフト車での運搬まで協力いただけることとなった。 ・次回の交流会時には、会長が直接施設と連絡調整を行うことができるようになった。施設側からは「地域の人にも遊びに来てもらい、施設のことを知ってもらえるようにしたい」と前向きな声が出ている。 ※施設への理解が広まり、施設や町内それぞれの行事に呼び合うなど、相互の協力関係が築かれるよう働きかけたい。		『サロンの活動支援』 ・CSCが他地区でサロンに取り組む事例を情報提供し、住民自らが実施内容を決められるようサポート・ ・サロンでは、住民の声を拾って役員に伝えたり、より住民同士のつながりが生まれるような働きかけをしている。 ※月に一回、定例で実施されていることで「サロンを楽しみに予定を合わせるようになった」との声。 住民同士で体調や町内の危険な箇所などを話す場面が多く見られるようになった	
							

①		②		③		④	
【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】	【活動地区】	【関わりテーマ】
桃生	地域の福祉教育	桃生	課題の普遍化	桃生	民生委員サポート	桃生	住民活動サポート
【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】		【ニーズ・課題】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校からの声として <p>「震災時に体育館が避難所になったがそれ以降の関わりがない」</p> <p>「障害に対する理解と有事に備えた平時の顔の見える関係性づくりをおこないたい」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが就学した後、親が集う場がない ・ せっかくできた親同士の関係が子どもの就学と同時に切れてしまう。 ・ 子どもの成長にともない、悩みや不安も変化してくる。気心した仲間で継続的に支え合っていけたら 		<ul style="list-style-type: none"> ・ ある民生委員さんの声 <p>「子育てや仕事が一段落した人たちが集える場がほしい」</p> <p>「顔を合わせる機会が少ない」</p> <p>「何かしなきゃ、でも何から始めたらいいかわからない」</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ ある同じ地区の住民の声 <p>「生きがいデイや老人クラブ以外の居場所がほしい」高齢者の声</p> <p>「サロン活動をより地域定着させたい」という50～60代で集まっているサロン実施者の声</p> <p>「踊るのが好き。」と踊ることに楽しみと生きがいをもった人たちの発見</p>	
【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】		【実践・手法・成果】	
<p>『小学生と障害者施設との交流会』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生自分との違いを知る一方で、同じだということも知り、今後一緒に出来ることを探していきたいという声が聞かれた ・ 違う機関の間に”福祉教育”というきっかけを持って来る事により、”地域の福祉力の推進”を意識している 		<p>『新たな枠組み（子育てサロン）開催に向けた基盤づくり』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てサークルの活動把握 >卒業後の状況についてヒアリング >サークル以外の情報交換の必要性を確認 ・ 上記の課題を様々な子育てに関わる人関係者に投げかけることにより課題の普遍化を図っている（桃生内において） <p>具体的な形にはなっていないがサークル内の意識が変化してきているのを感じる</p>		<p>『民生委員サポート（サロン開催）』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員と共に動いてもらえそうな人材に声をかけ、民生委員の想いを共有・共感してもらえるよう働きかけをした。（場を設定しCSCとして話をした） ・ 月一回のお茶会から始めていこうという事に（現在は3回開催、平均15名） <p>上記以降地区内の交流の場になっており、より多くの人がかれる居場所となるよう住民同士が話し合っている</p>		<p>『みんなで繋がれる場の設定（新年会）』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の声を繋ぐ場の設定をした（打ち合わせの場の調整） ・ 新年会の企画と実施のサポート <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD Salon[サロン] --- NewYear[新年会] Elderly[高齢者] --- NewYear Hobby[趣味の会] --- NewYear </pre> </div>	